南浜中

志をもって、主体的に学ぶ生徒の育成

～問題発見につながるための導入と学力を保証するための まとめや振り返りの工夫～（３年計画の２年次）

校長　　佐　藤　公　一

１　研究主題について

本校では校訓に「自主」「協同」を掲げ、主体的に、なおかつ個々の役割や個性を尊重しながら、お互いを高め合える集団づくりに取り組んできた。本校生徒は、小・中学校ともに小規模校で学年を超えて協力し合いながら生活しているため、自然と助け合いの精神が身に付いており、教室内や異学年との人間関係も良好である。授業での教え合いや課題解決に向けた取組など、学びの場面での協調性は高い。

しかし、その反面、ほとんどが小学校からの顔見知りであることから、お互いの能力もよく知り得ており、それが切磋琢磨する気持ちに結びつきにくい要因となっているとも考えられる。

生徒は総じて素直であるが、その素直さゆえに、与えられた仕事に対して責任をもって取り組むことができる傍ら、自主的かつレベルアップした活動や、場に応じた表現については消極的である。そのため、もてる力を発揮しきれていない傾向があり、学習内容の定着も低い。

昨年度は、主体的な学びの実践として、授業の導入部に力点を置いた問題解決的な学習と、授業のまとめの段階で「まとめ」または「振り返り」の活動を取り入れることを大きく２本柱とし、つまずきの共有化を図ったり、生徒が自らの課題に気づいたりすることで、自らの学習を調整し、主体的に学ぶ生徒の育成を目指した。継続して「ユニバーサルデザインの視点を生かした授業づくり」の研究を進めることで、よりよい学習環境を実現できると考える。今年度は、導入の工夫を継続しつつ、まとめや振り返りの活動の工夫により、主体的な学びが充実し、生徒一人一人の学習意欲を高めることをねらいとして本研究主題を設定した。

２　研究のねらい

(1)　生徒のもつ疑問や「ズレ」を拾い上げ、ともに学習課題を設定し、問題解決に向かうことが生徒の学習に対する切実感・必要感を強めると考える。また、生徒の疑問を共有することでつまずきの共有化を図ることをねらいとする。

さらには、授業づくりにおいては、教師や生徒による UD チェックの評価も参考にしながら、「様々な指導の工夫や手立て」「個に応じた適切な支援」に重点をおき、進んで学ぶ生徒の育成や基礎学力の向上を目指す。

(2)　まとめや振り返りの活動を充実させ、学習者自身が本時のねらいの達成や予習・復習の課題を明確にする。学習者自身が振り返ることで学びと評価が一体となり、より主体的な学びが充実する。さらに、指導者が小テストや口頭などで定着度を確認し、個に応じた課題を与えたり、添削指導などを行ったりすることで、生徒はより深く学び、学力向上につなげることを目指す。

３　研究仮説

(1)　問題解決的な学習により、自ら疑問を抱き、もちえた仮説が理にかなうかどうか自分で考える過程の中に学習の目的があることに気づくことができる。また、ユニバーサルデザインとキャリア教育の視点も継続して取り入れることで、基礎的・汎用的な能力を高めることにつながり、主体的に学習に取り組むことができる。

(2)　まとめや振り返りの段階で、自分の意見を伝えたり、他人の意見を聞いて自分の意見と比較したりすることで学びが深まるとともに、友人のよさや共に学ぶことのよさに気づくことができ、さらには、課題も明確になる。分からないことに気付くことも大切な学びであり、新たな課題を発見することができれば、自主学習ノートや家庭学習の取組に反映させることができ、次の学習に生きる自己評価となる。また、日常生活とどのように関連するか考えたり、学びの価値や楽しさを実感したりすることにもつながる。

４　研究内容

(1) 問題解決的な学習の工夫

生徒が自ら問題を発見し、主体的に問題解決に向かえるよう、授業の導入から課題設定までにおいて教師の働きかけを工夫する。そこで生徒に「ズレ」の問いをもたせることにより、主体的・対話的な学びの実現につなげていく。

流れとしては、問いの意識こそが対話を活性化させ、興味をもつことが学ぶ意欲につながる。また、自分以外の人の意見を聞くことで思考も変容していく。さらに、間違えるとリベンジしたい気持ちにつながり、生徒は自らの知識と経験を駆使して、問題解決に努めようと意欲的に取り組むようになる、ということである。

よって、以上のことを念頭に置きながら、授業の導入部の教師の仕掛けを工夫した授業づくりに取り組みたい。また、学習課題、流れ、まとめについてはユニバーサルデザインの視点を生かして効果的に提示することとする。

(2) まとめや振り返りの工夫

授業のまとめの段階で、自分の意見を伝えたり、他人の意見を聞き自分の意見と比較したりする機会を設ける。また、学習内容を定着させるために、小テストや振り返りの活動を取り入れる。小テストの解答状況や理解したことを言葉で表すことによって、学習内容のつまずきや定着度を把握する。

５　研究の経過

(1)研究仮説に基づく授業研究

月	日	研修予定（学年・授業者・講師等）	全体会等
4	4	教科研究主題　共通理解	全体会（共通理解）
5	１７	教育指導課・センター訪問	授業参観・協議
8	２１	校内研　まとめや振り返りについての実践発表 吉田教諭	全体会（共通理解）
9	6	校内研　まとめや振り返りについての実践発表 坂教諭	全体会（共通理解）
１０	１１	校内研　まとめや振り返りについての実践発表 スワンソン教諭	全体会（共通理解）
１１	１５	JS 小学校授業見学(大久喜小学校)	授業参観・協議
１１	２２	校内研　まとめや振り返りについての実践発表 沖野教諭	全体会（共通理解）
1	２４	校内研　伝達講習(視聴覚)フォームを使った振り返り	全体会（共通理解）
2	２１	校内研　まとめや振り返りについての実践発表 助川教諭　　今年度研究報告（研修部）	全体会（共通理解） 全体会（成果と課題）

(2)一般研修

月	日	研修予定内容　(担当等)
4	4	一般研修　　八戸市立南浜中学校　校長　佐藤　公一 「まとめと振り返りの工夫された授業づくり」
7	5	盲導犬キャラバン講演会　日本盲導犬協会　仙台訓練センター　豊田 氏 盲導犬１頭（ＰＲ犬）　「盲導犬の仕事とは（盲導犬の訓練等紹介)」
7	１２	参観日講演会　八戸市立市川中学校　養護教諭　片岡　千帆子 氏 「脳とメディアの初耳学」
9	２２	南浜中学校の歴史を知る講演会　種差観光協会　会長　柳沢　卓美 氏 「南浜中学校の歴史について」
１０	１３	いのちを育む教育アドバイザー事業　三戸中央病院　片桐　清一 氏 「思春期のこころとからだ」
2	１３	薬物乱用防止教室　講演　函館税関八戸税関支署

６　研究の成果

(1)　今年度の研修は、校長からの「まとめや振り返りが工夫された授業づくり」の講話で始まった。その後、校内研で教師の実践を発表してもらい、「まとめや振り返り」の方法について情報共有した。ワークシートに記入させる方法やタブレットに入力させる方法など、それぞれで生徒の変容を確認する材料になり、授業改善に役立っていた。

　また、教師はほぼ毎月一回、生徒は１学期と２学期末にＵＤ（ユニバーサルデザイン）チェックを行い、校内研で成果や課題など発表し、良いところは継続できるよう呼び掛けている。

(2) 生徒の学校評価アンケートでは、「授業での学習課題が提示され、まとめや振り返りのある授業」についてＡ「そう思う」の評価が 50 %、Ｂ「どちらかといえばそう思う」の評価が 30 %で、全体の８割である。教師の回答では、Ａ評価とＢ評価を合わせて 100 %であり、授業のほぼ毎時間に、まとめや振り返りの活動を取り入れ、学んだ内容を再確認している。生徒は自分の言葉でまとめたり、また、自分と他者の意見を比較したり、他者の意見を取り入れたりすることで学習内容を深めることにつながっている。

７　研究の課題

(1)　授業を全員で参観し、研究協議等を行う校内研を実施することができなかったので、来年度は全教員で授業を参観しての校内研を計画し、全体での共通理解を図りたい。また、「まとめや振り返り」を中心に校内研での実践発表を行ったが、生徒は授業直後に授業内容を振り返ると理解していても、次の授業の始めには定着していないことが少なくない状況である。また、前時の復習に時間がかかることもあり、本時の授業の目標に迫る時間が少なくなることがある。

(2)　小中ジョイントスクールでの目標学習時間の達成率は１学年 87.5 %、２学年 75.0 %、３学年 42.9 %であり、全校的に学年が進むにつれ減少傾向にある。まとめや振り返りの活動が、学習の達成感を味わうことや次時につながる学習意欲と見通しをもつことまでに至っていない。生徒のまとめや振り返りの活動から、成長が見られた生徒を褒めたり、個別の指導を行ったり、効果的な学習方法を具体的にアドバイスしたりするなどして、生徒自らが学習の調整を図りながら、ねばり強く取り組む力の育成を目指した授業づくりが必要である。

（記入者　坂　　剛）